

平成 24 年 6 月 26 日 第 1 回 社会教育委員会 議 議 件 資 料

平成 23 年度 鴨川市教育行政評価報告書（案）

2 生涯学習の充実

基本方針	家庭や地域での子どもの体験教室やキャリア学習、生活を豊かにする地域クラブ活動などを通して、市民が趣味やスポーツなどに親しみ、様々な問題解決や自己の希望の実現に向け、いきいきと学ぶことのできる「市民一人ひとりが輝く生涯学習のまちづくり」を進めます。 また、講師から受講者へと、一方的・固定的に学習活動を進めるのではなく、市民同士がお互い尊重し合い、教え合い、学び合う生涯学習活動の充実を図ります。 さらに、大学との連携により学習機会の拡充を図るとともに、高齢化と若者の地域離れが進む中、市民が各地域の自然や歴史、文化などを活かし、趣味やスポーツ、地域学習などを通して、お互いに交流し、活動する魅力あるコミュニティづくりを促進します。
------	--

○多彩な学習活動の促進

事業等名	公民館事業の充実
概要	魅力ある公民館教室の開催、サークル・クラブ活動の育成、公民館だよりの発行などにより、高齢化の進行等に伴う新たなニーズにも対応した公民館事業の充実を図ります。 また、公民館の管理のあり方等を検討し、利便性の向上に努めます。
実施状況・成果と課題	【実施状況】 魅力ある公民館教室とするために、歴史の講座、趣味的な講座、ハイキング、高齢者学級、家庭教育学級など多分野にわたって実施しています。また、参加者が地域の限定なく、どの公民館の講座にも申し込みができるように配慮しています。 主催事業 82講座(全公民館合計) 定期登録団体 190団体(全公民館合計) 【成果と課題】 ◎参加者が希望する講座に参加できるように、その都度受講者を募ることで、新規の参加者も増えてきています。 ◎定期登録団体には、社会教育団体であることを意識づけるための団体長会議を行うことで、活動におけるモラルの向上と活動についての共通理解を図っています。 ◆年度当初に公民館の運営基本方針と重点目標を生涯学習課が定め、それに基づいて公民館は主催事業を企画する必要があります。 ◆主催事業は、何のために、目的は何かを念頭におき、事業が遊びにならないように企画することが必要です。 ◆サークルがカルチャー化しているので、自分達で運営し、自分達で学習する力をつけさせる必要があります。 ◆サークルの利用者が高齢化、固定化して活動を維持できなくなりつつあるので、新規加入者の促進が必要です。

事業等名	地域学習・ボランティア活動の支援
概要	文化施設ボランティアの活用及び育成と生涯学習ボランティア(体験活動支援)の募集を図るとともに、人材バンクとして整備し、地域学習等を支援します。
実施状況・成果と課題	【実施状況】 平成21年度から、市民に親しまれる施設づくりを目指し、文化施設ボランティアを郷土資料館及び市立図書館に導入しています。各施設の行事にボランティアとして活動していただくとともに、研修をとおしてボランティアの方のスキルアップを図っています。 また、今年度、生涯学習ボランティアに係る要綱を制定し、広く市民に募集を図り、応募者を対象に説明会を開催するなど、生涯学習人材バンク整備の取り組みをしています。 【成果と課題】 ◎文化施設ボランティアは、現在38名の方の登録があり、各施設において積極的に活動しており、来館者数の増加など施設の活性化につながっています。 ◎生涯学習ボランティアは現在募集段階ですが、当該事業の説明会を市民向けに開催するなど、市民が講師として教える生涯学習ボランティア活動のための生涯学習人材バンクの整備を進めています。 ◆文化施設ボランティアについては、本年度も、各施設においてボランティアの方の活用計画を基に活動していますが、より充実した活動ができるように参画型への移行や、個の活動からグループの活動への推進を図っていく予定です。 ◆生涯学習ボランティアについては、まだ初期の段階のため、人材バンク登録のボランティアが少ない状況ですが、より一層の募集の呼びかけと、当該人材バンク利用促進の周知を図る必要があります。

事業等名	児童・生徒の体験活動事業の推進
概要	体験活動をする社会教育関係団体の支援、職場体験や中学校通学合宿事業など、様々な体験活動と交流学习機会の充実を図り、子どもの生きる力を育みます。
実施状況・成果と課題	【実施状況】 放課後子ども教室事業として、今まで曾呂地区で実施されていた「曾呂わくわく隊」に加え、平成23年度は、新たに「西条土曜スクール」と「田原土曜スクール」を立ち上げました。 また、キャリア教育の一環として、市内の中学2年生全員を対象に、「職場体験学習」を実施し、将来の仕事についての学習・体験する機会としています。新たに中学1年生を対象に、青年会議所と連携して市内3中学校それぞれで、「青少年未来プロジェクト ～情熱ハローワーク～」を実施し、地元で働く人・働くことへの理解を深め、職業選択を考えるきっかけづくりとしています。 中学3年生には通学合宿を実施し、子どもたちの自立心・協調性を育んだり、学力の向上を図ったりする機会としています。 【成果と課題】 ◎放課後子ども教室を通して、休日の子どもの居場所や学習時間、遊び場の確保と充実を図るとともに、地域ボランティアとの交流によって、子どもたちが地域を見直したり再発見をしたりすることで、地域を愛する心が育ちつつあります。 ◎学校と地域が連携した子どもたちへの仕事やボランティア活動といった体験活動の充実に向けた取り組みが進んでいます。

	◎親元を離れて自分たちで生活する通学合宿を通して、自立心や協調性を養うことにつながっています。また、受験に向けた学習のきっかけづくりとなり、お互いに教え合うことで思いやりの気持ちを育むことにもつながっています。 ◆放課後子ども教室を支える地域ボランティアの確保と、マンネリ化にならない体験プログラムの開発が必要となります。 ◆学校と事業所における職場体験学習の実施希望時期の調整と、5日間の長期受け入れが可能な事業所の確保について改善を図っていく予定です。 ◆通学合宿では、現在使用している合宿場所の広さや部屋割りの状況から、受け入れ可能人数の男女比に偏りが出てしまうため、合宿場所の見直しも必要となります。また、効果を考えると、より長期にわたっての実施が望ましいため、期実施を可能にできる支援スタッフの拡大が必要となります。
--	---

事業等名	家庭教育の支援
概要	家庭教育学級の開催、家庭教育指導員による家庭教育指導や相談事業の実施をするとともに、家庭教育学級未実施地区開設準備を行い子育て学習会への支援をし、家庭の教育力の強化を図ります。
実施状況・成果と課題	【実施状況】 家庭教育学級は、23年度中に公民館と幼稚園・小学校が連携をとり、市内7幼稚園・1小学校で、のべ16回開催されました。また、全地区を対象とした家庭教育講演会を実施し、参加者の反応は概ね好評でした。 家庭教育相談室は、毎週水・木・金曜日に天津公民館内の相談室で委嘱された2名の家庭教育指導員が対応しています。様々な家庭教育の問題に関して、電話相談や面接相談等を受けています。23年度相談件数は、のべ133件でした。また、「母の和だより」を毎月発行し、関係者に配布しています。 子育て学習会は、23年度中に4つの会で開催され、のべ46回でした。 【成果と課題】 ◎家庭教育相談室に寄せられる相談が年々増え、また、幅広い年代・職種からの相談もあることから、相談室の必要性が理解され、地域に相談室が浸透してきていることがうかがえます。 ◎幼稚園保護者と公民館が積極的に活動して、さらに社会教育指導員も相談に加わることで、受身でない参加型の講話や体験型の親子交流活動が多く実施されました。 ◎幼稚園だけで行なわれていた家庭教育学級の充実に向けて、家庭教育講演会はオーシャンズ若潮明社と共催して、子育てサークルや幼稚園、保育園、学校の協力のもとに実施し、子育て世代や孫育て世代の参加者を多数得るなど、とても好評でした。 ◆家庭教育学級未実施(江見・太海・曾呂)地区での開催に向けて、社会教育指導員が公民館長とともに役員会に参加するなど、企画の段階から助言できるような態勢を整えて開催地区の拡大を図るとともに、すでに実施している幼稚園での活動の充実に向けた取り組みを図る必要があります。

○青少年の健全育成

事業等名	啓発活動の促進
概要	青少年健全育成大会や青少年育成指導者研修会の開催、小・中学生による青少年健全育成に関する作文等の発表会や映画会の開催など、多様な団体との連携を強化し、青少年健全育成に関する啓発・広報活動の充実を図ります。
実施状況・成果と課題	【実施状況】 青少年問題に対する様々な取り組みや方策を探り、地域住民の意識を高め青少年健全育成の推進を図る目的として、毎年青少年健全育成推進大会及び青少年育成指導者研修会を開催しています。青少年育成鴨川市民会議を中心とし、育成会、相談員、PTAなど各種団体の参加による研修会は、青少年健全育成に関する様々な課題に関する講話や啓発活動を行っています。 【成果と課題】 ◎研修会参加者からは、子どもたちの携帯電話の使用方法や、子どもとの接し方を見直すきっかけになったなどの意見が聞かれ、少しずつではあるものの効果が現れてきています。 ◆今後は、推進大会の研修会だけでなく、できるだけ地域住民が参加しやすい研修会の開催を検討する必要があります。

事業等名	青少年育成団体活動の活性化及び地域との連携強化
概要	青少年育成団体や学校・警察連絡協議会などの組織・団体、地域住民と連携しながら、非行防止パトロール等を実施、防犯、非行防止親子映画会を開催するなど、地域が一体となった青少年の健全育成に努めます。 また、青少年育成団体などの指導者の交流・連携を強化しながら、球技大会やウォークラリー、ジュニアリーダー講習会、小学生通学合宿、小学生などの土・日曜日の有効活用を図るための放課後子ども教室・土曜スクールなど、多彩な青少年活動の展開を促進します。
実施状況・成果と課題	【実施状況】 ・青少年育成鴨川市民会議を中心に、学校や警察の連携により年数回の防犯パトロールを実施しています。また、青少年相談員の夏季パトロールや地域ボランティアのパトロールも実施しています。 ・青少年育成団体の指導者の交流や連携を図りながら、球技大会や各種大会を開催しています。 ・放課後子ども教室事業として、今まで曾呂地区で実施されていた「曾呂わくわく隊」に加え、新たに「西条土曜スクール」と「田原土曜スクール」を立ち上げて実施し、学年の異なる友達と一緒に、学習やさまざまな体験活動を地域のボランティアの協力のもとに行っています。 ・市内の小学5・6年生を対象とした通学合宿を実施し、子どもたちの自立心・協調性を育んだり、学力の向上を図ったりする機会としています。 【成果と課題】 ◎防犯パトロールは、警察署と連携を密にした活動として実施しています。 ◎放課後子ども教室を通して、休日の子どもの居場所・学習時間・遊び場の確保と充実が図られています。また、多彩な学習や体験活動の地域ボランティアとの交流によって、子どもたちが地域を見直したり再発見したりすることで、地域を愛する心が育まれつつあります。 ◎通学合宿では、親元を離れて自分たちで生活することを通して、自立心や協調性を養ったり、地域学習を通して、自分たちの地域のよさを再確認したり、新しい発見の場となっています。

	◆今後も青少年育成鴨川市民会議を中心にパトロールを継続していく必要があります。 ◆放課後子ども教室を支える地域ボランティアの確保と、新たな体験プログラムの開発が必要です。また、今後の地区の拡大を踏まえ、地域のコーディネーターやボランティア指導者等を探すことが課題です。 ◆通学合宿では、現在使用している合宿場所の広さや部屋割りの状況から、受け入れ可能人数の男女比に偏りが出てしまうため、合宿場所の見直しも必要となります。また、効果を考えると、より長期にわたっての実施が望ましいため、長期実施を可能にできる支援スタッフの拡大が必要となります。
--	---

○市民文化の振興

事業等名	大学等との連携による特色ある生涯学習プログラムの充実
概要	市内に立地する大学関連教育研究施設と連携し、講演会や実験教室などを行います。
実施状況・成果と課題	【実施状況】 大学関連教育研究施設と連携した事業は、平成4年から城西国際大学の公開講座、平成9年からは早稲田大学による著名な教授による講演会や展示会、おもしろ科学実験教室は平成10年から開催されました。今年度、「公開講座」では『くずりと生活』をテーマに全2回の講義を実施、夏休みの一大イベントとなった「おもしろ科学実験教室」では、募集定員200名を大きく上回る311名の応募がありました。「講演会」では、早稲田大学競走部駅伝監督の渡辺康幸氏を招聘し、自身の経験や箱根駅伝のエピソードを交えながら講演いただきました。また、市民が直接キャンパスを訪れ、大学が有する歴史・文化資産を見学する「キャンパスツアー」を早稲田大学と東京大学で実施しました。その他、東洋大学の教授による講演会、自然体験学習を目的とした東京大学千葉演習林での「野鳥の巣箱をかけよう！」など多彩な事業を実施し、多くの市民が参加しています。 【成果と課題】 ◎大学の持つ知的資産や文化的資産を本市を初め周辺地域に積極的に還元しています。 ◎各大学が市民と交流を深めるとともに、大学への理解、市民文化の向上、生涯学習の充実に役立っています。 ◆現在、単発的な事業が主であるため、市民のニーズに対応した継続的に学べるカリキュラムが求められます。 ◆公民館、図書館、郷土資料館といった社会教育施設と連携した事業を実施し、各施設の活性化を図る必要があります。

事業等名	生涯学習施設の整備
概要	老朽化の状況に応じ、公民館などの計画的な施設の改修、修繕を行うとともに、視聴覚教材等の充実を図ります。
実施状況・成果と課題	【実施状況】 公民館・図書館や資料館の老朽化により故障箇所が増えているのが現状です。故障箇所の確認をし、利用者の安全性を配慮しながら、予算の範囲内で修繕・改修を行ってきました。また、視聴覚機材については、新規購入は予算の範囲内でしかできませんので、現況の教材をPRしながら利用していきます。 【成果と課題】 ◎各施設とも故障中のエアコンや利用者が不便をきたしている箇所については、少しずつですが修理を進めてきました。 ◆今後も予算を考慮しながら、利用者の意見を聞き修繕していくことを考えています。また、視聴覚機材はパソコンの普及により、ある一定の役目は終わりましたが、現在残っている教材・機材は利用したいと考えます。

事業等名	読書・学習環境の充実
概要	多様な取り組みを推進するとともに、遠隔地利用者の利便性向上のため、公民館等社会教育施設との連携強化を図り、読書人口の増加に努めます。
実施状況・成果と課題	【実施状況】 図書館では赤ちゃんからご高齢の方まで、どの年代の方にも楽しめる事業を展開しています。その中で特に高齢の方や子どもなど遠隔のため図書館まで来るのが困難な住民へのサービス事業（試行）として、曾呂と大山の公民館に図書館分室を開設しました。両公民館とも500冊程度の資料を図書館から提供し、利用を開始しています。 【成果と課題】 ◎小学校が近いこともあり、児童の利用や親子での利用が増えています。また、公民館教室に通う方等の利用も増え、曾呂では登録者数29名、貸出冊数156冊、大山では登録者数26名、貸出冊数117冊です。現在公民館教室での関連本（趣味本）や読み聞かせ用の絵本への要求が増えています。 ◆今後住民の要求に応えるため、購入予算の配分の見直しをし、公民館図書室の所蔵を1000冊程度に増やすと共に、平成24年度にはもう1館開設する予定です。

事業等名	図書資料の充実
概要	中高生や高齢者向け資料、郷土資料をはじめとして、図書資料等の充実を図ります。
実施状況・成果と課題	【実施状況】 中高生用の学習スペースの確保と学習資料の購入、朝読用(朝の読書用)にお勧めの文庫本コーナーや新書本コーナー、また、学校・仕事案内コーナーの設置など、中高生の利用の拡充に努めてきました。また、ご高齢の方向けの資料として大活字本や朗読及び落語CDの購入をし、更なる資料の充実に努めました。郷土資料については鴨川の歴史への関心をもっと深めてもらおうと「ふるさと文庫コーナー」を新設し、今まで貸出できなかった資料も館外へ持ち出せるようにしました。 【成果と課題】 ◎それぞれの分野において図書の充実を図り、60歳代からの利用が昨年度と比べ2.5%も増えました。また、貸出冊数を見ると大活字本、AV資料共に0.5%、中高生用図書の貸出も0.2%の増加があるなどの成果がみられました。 ◆今後の課題としては、今年度作成された「鴨川市生涯読書推進計画」のもと、小・中学校との連携を更に深めると共に、中高生へのサービスの拡充にどう繋げていくかが課題となります。

事業等名	地域文化クラブ活動の促進
概要	市民が主体的に様々な地域文化クラブを結成し、充実したクラブライフを実現できるよう、支援の充実を図ります。
実施状況・成果と課題	【実施状況】 各文化団体の活動の成果を発表する機会として、毎年秋に鴨川市文化祭と市民音楽祭を開催しています。 【成果と課題】 ◎文化協会の書道部門では、文化団体の書道作品だけでなく、市内小学校及び市内高校生の作品も展示、また、写真部門でも、市内の高校生の写真を展示しており、作品数が増えています。子どもたちの作品を展示することで、家族連れや高校生の見学者が増えました。華道部門では、初心者向けの講座を開催した所、中学生の参加もあり、芸術文化活動の幅が少しずつ広がっています。 ◎市民音楽祭では、市民から「市民歌 夢よ とどけ」を知らないとの声があり、音楽祭実行委員が来場者に歌を指導することで、来場者全員で一緒に楽しむという雰囲気音楽祭となりました。 ◆文化協会員は、会員の高齢化により、会員数が減少しているので、各部門毎の周知が必要でありPRの方法を検討していく必要があります。 ◆市民音楽祭は、年度により入場者の増減がありますので、来場者に楽しんでもらえるよう、新しい試みをしていく努力が必要です。

○歴史・文化の保存と活用

事業等名	歴史・文化の発掘と保存・展示
概要	未だに明らかにされていない地域の歴史や文化の調査・保存に努めるとともに、郷土資料館や文化財センターでの展示、市史の編さんに努めます。
実施状況・成果と課題	【実施状況】 市内にはまだまだ明らかにされていない歴史や文化が残っている状況の中で、寺社の立入調査、古文書の解説などを所有者や地元住民の理解と協力を得ながら実施しています。その成果を「伊八」や「嶺岡牧」、ミニ収蔵展などの展示、地域ごとの歴史を記したあゆみの発刊事業に活用するなど、より多くの市民に鴨川市域の歴史や文化の重要性を理解してもらい、さらなる調査・保存に向けての理解や情報提供などに努めています。 【成果と課題】 ◎企画展として「伊八再発見」展を開催し、鴨川出身の伊八とその価値を広く内外にアピールし、多くの入館者を記録しました。 ◎郷土資料館や市史編さん委員会が管理・収蔵する資料を有効に活用する意味も含めて、ミニ収蔵展を4回開催し、市内で埋もれていた歴史の再発見を進めています。 ◎あゆみシリーズ『鴨川町のあゆみ』を発刊し、現在『東条のあゆみ』の製作を進めています。 ◆市内には、埋もれている歴史資料がまだまだあると考えられ、近年、市民からの情報提供や、調査依頼の件数が増加しつつあります。地域の関係者や所有者との信頼関係を築くことを念頭において調査を進めることが課題となっています。さらにその調査結果をどのような形で市民に還元できるかも重要な課題となります。

事業等名	歴史・文化の学習と活用
概要	伝統文化や文化遺産などの学習・体験機会の充実を図るとともに、郷土を愛する心の醸成や市民文化の向上のため、今後のまちづくりや観光・交流などに積極的な活用を図ります。
実施状況・成果と課題	【実施状況】 郷土資料館、市民ギャラリーでは、様々な体験講座を実施し、また、公民館、学校、ガイド養成講座などでは職員が講師となって、歴史・文化の普及に努めています。さらには、観光・商工関連団体との連絡を密にし、町づくりや観光における歴史・文化の情報提供を行っています。 【成果と課題】 ◎一般社団法人波の伊八鴨川まちづくり塾と協力しながら活動しました。 ◎お飾り教室などの大人向け講座、浮世絵体験教室などの子ども向け講座を継続的に実施しました。 ◎小学校、公民館などへ講師を30回以上派遣し、1500人以上の方が講義を受けています。 ◆今後はさらに、幅広い内容に関する要望が寄せられる可能性もあるので、そのような要望に応えるために、職員の知識を深め、経験を広げることが求められます。また、豊富な人材の活用と育成にも努めることが必要となります。